

公開シンポジウム

主催：現代人間学部現代社会学科 後援：町田市教育委員会、川崎市教育委員会

“格差社会” 日本のゆくえ

家族・移民・ナショナリズムをめぐる言説から考える

日時：2007年10月13日（土）13：30～17：30 場所：和光大学J-301教室

＝開催の要旨＝

バブル経済崩壊を機に、中高年齢層のリストラや収入低下、若年層を中心にフリーターやニート、ワーキングプア（働く貧困層）といった現象が表面化するなど、「総中流社会」とも称されてきた日本社会は大きな変容を見せ、人々の間には将来の生活や社会に対する不安が高まっています。このような状況を受けて、経済学や社会学の分野では「格差」の内実をめぐって盛んに議論がおこなわれています。また、急速な少子高齢化による人口減少という予測のもとに、日本社会の持続可能性を危惧する主張も現れており、その一つの対応策として「外国人労働者」の受け入れの是非をめぐっても議論されています。「格差」や「外国人労働者」受け入れをめぐる言説には、あるべき日本社会の姿に関する人々の期待や思惑、不安などが横たわっており、ここには現代日本の「ナショナリズム」も深く関わっていると考えられます。シンポジウムではこれらの言説を手がかりに、そこから読み取れる日本社会の現状と人々の意識のありようを「社会的排除」や「ナショナリズム」といった視点から考察し、“格差社会” 日本のゆくえを考えていきます。

＝報 告＝

1. 「格差論」の現在と家族・労働・福祉
岩間 暁子（和光大学現代人間学部現代社会学科准教授）
2. 人口減少時代における〈移民〉と社会的排除
挽地 康彦（和光大学現代人間学部現代社会学科専任講師）
3. ポスト総中流社会におけるナショナリズムのゆくえ
渋谷 望（千葉大学文学部行動科学科准教授）

＝討 論＝

【討論者】伊藤 るり（一橋大学大学院社会学研究科教授）
ユ・ヒョジョン（和光大学現代人間学部現代社会学科教授）

＝ディスカッション＝

【司会】井上 輝子（和光大学現代人間学部現代社会学科教授）

